

第6次高浜市総合計画推進会議（第1回） 会議録

日時	平成25年5月8日（水）午後7時00分～7時50分		
場所	高浜市役所 第2会議室（4階）	傍聴人数	11名
出席者	委員	中川幾郎、小笠原芳夫、中川勝利、竹内一仁、鈴木康博、神谷環光、竹内亨弘、井野代司彦、杉浦盛仁、古橋知美、神谷通夫、杉浦幸七 (12名出席)	
	行政	経営戦略グループ 主査 島口 靖 (財政分科会リーダー) 文化スポーツグループ リーダー 内藤克己 (生涯学習分科会リーダー) 教育センターグループ 主幹 神谷 理 (学校教育分科会リーダー) 経営戦略グループ リーダー 山本時雄 (産業・観光分科会リーダー) 市民生活グループ リーダー 山下浩二 (環境・憩い分科会リーダー) 都市防災グループ リーダー 芝田啓二 (防犯・防災分科会リーダー) 地域福祉グループ リーダー 杉浦崇臣 (地域福祉分科会リーダー) 保健福祉グループ リーダー 加藤一志 (健康分科会リーダー) (8名出席)	
	事務局	企画部長 加藤元久 地域政策グループ リーダー 岡島正明 (自治推進分科会リーダー) 同 主幹 三井まゆみ 同 副主幹 鈴木明美 同 主査 山本衣江 同 主査 山本久美 同 主事 榊原雅彦 同 主事 中村彩 同 主事 岡田真吾 (9名出席)	
次第	1 あいさつ 2 議題 1) 平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」の分科会編成について 2) 「高浜市の未来を創る市民会議」のスケジュールについて 3) 「高浜市の未来を創る市民会議」キックオフについて 3 その他		
資料	資料1：第6次高浜市総合計画推進会議（第7回）会議録 資料2：平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」分科会編成 資料3-1：平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュール 資料3-2：平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」の運営の方向性について 資料4：「高浜市の未来を創る市民会議」キックオフ 次第（案）		

## 1. あいさつ

- 会 長： ・第1回推進会議を始めさせていただく。お手元に、前回の議事録が「資料1」として配布されているため、よろしくお願ひしたい。
- ・本日は、年度が改まって1回目の会議ということで、はじめに、市長より、あいさつをいただきたい。
- 市 長： ・昨年度、委員の皆さんには大変お世話になった。提出いただいた提言書を基に、今年度は前期基本計画の最終年度ということで、新たに進めていく。
- ・今年度は、市民会議、推進会議、審議会といろいろな会議が並行して進んでいく。推進会議では、前期基本計画最終年度の総仕上げと、中期基本計画につながる会議であるという意識をお持ちいただき、たくさんのご意見をいただける場面にしていただきたい。
- ・今年もよろしくお願ひしたい。

## 2. 議題

### 1) 平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」の分科会編成について

事務局より、資料2『平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」分科会編成』について説明。

- ①市民メンバー 神谷勝司さん 財政分科会から学校教育分科会に変更
- ②財政分科会の市民人数を7名から6名に、合計を14名から13名に修正
- ③学校教育分科会の市民人数を8名から9名に、合計14名から15名に修正

以上、3点を変更・修正する。

—意見・質問なく、原案通り承認—

- 会 長： ・本日は、分科会の職員リーダーにも出席いただいているとのことなので、紹介をお願いしたい。
- 行 政： ・自治推進分科会職員リーダーを務める。市民の皆さんのご協力を得て、今年度も引き続き、職員も負けじと一生懸命頑張っていく。
- 行 政： ・財政分科会職員サブリーダーを務める。本日は、職員リーダーが不在のため、代理で出席させていただいている。
- 行 政： ・生涯学習分科会職員リーダーを務める。今年度も引き続き、市民リーダー発案の「出席者は必ず1回発言」を実施するため、話しやすい雰囲気をつくりながらやっていきたい。
- 行 政： ・学校教育分科会職員リーダーを務める。4月から新たに参加させていただいており、分からないことが多い中だが、市民リーダーとは顔見知りであり、心強い。市民の皆さんと協力しながら進めていきたい。
- 行 政： ・産業・観光分科会職員リーダーを務める。市民の皆さんの参加者数が増えた。市民リーダーと議論を重ねながら、進めていきたい。
- 行 政： ・環境・憩い分科会職員リーダーを務める。2年目となるため、市民リーダ

ーと昨年度の積み残し課題について取り組んでいきたい。

行政： ・防犯・防災分科会職員リーダーを務める。現場を大事にして、両市民リーダーとともに、一步一步進めていきたい。

行政： ・地域福祉分科会職員リーダーを務める。市民メンバー2名、職員メンバー4名が新規である。市民リーダーと議論を重ね、職員も頑張っていきたい。

行政： ・健康分科会職員リーダーを務める。市民リーダーとは「高浜市の未来を描く市民会議」からずっと一緒に取り組んでいる。車の両輪となるよう、頑張っていきたい。

事務局： (事務局職員を紹介)

会長： ・2年目の職員も多く、チームワークの良さが心強い。今後も、話し合い、協力し合ってよろしくお願ひしたい。

## 2) 「高浜市の未来を創る市民会議」のスケジュールについて

事務局より、資料3-1『平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」スケジュール』、資料3-2『平成25年度「高浜市の未来を創る市民会議」の運営の方向性について』について説明。

会長： ・市民会議での今年度の取り組みとしては、前期基本計画の締めくくりの年として、6月から2月まで、目標達成に向け、各分科会でテーマを決めて、検討を深める、あるいは目標値に達するために効果のある取り組みを実践するということである。引き続き、分科会中心となることである。  
・そのため、この推進会議における取組状況の報告や意見交換が、総合計画全体の推進にとって、非常に重要な軸になってくると思われる。そこで、市民会議開催の合間に、推進会議の開催を予定していくことであった。

—意見・質問なく、原案通り承認—

## 3) 「高浜市の未来を創る市民会議」キックオフについて

事務局より、資料4『「高浜市の未来を創る市民会議」キックオフ 次第(案)』について説明。

—意見・質問なく、原案通り承認—

## 3. その他

会長： ・今年度はキックオフでの初顔合わせにおいて、年間の取り組みテーマを概ね決定し、その場で公表して市民会議メンバー全員で情報共有する予定とのことだった。

・現時点で、どのような方向性で今年度は取り組まれるのか、また、その意気込みも含めて、委員の皆さんに、お一人ずつ簡単にご紹介いただきたい。

委員： ・職員リーダーとの打合せの中で、昨年度作成した財政クイズを広く知ってもらうため、広報に問題を掲載し、次の発行号で解答を発表するということを

行ってはどうかという話が出た。また、個人的には、とりめしやわがまちの特産を景品に出したいと思っているが、これは調整が必要と思われる。

- ・もっと分かりやすくするため、また、親しみやすくするために、財政ゲームの作成をメインに検討していきたい。

委員：

- ・職員リーダーと話をし、2つのことに取り組んでいきたいと考えている。
- ・1つ目は自治基本条例を広めるための小学校への出前授業の実施。今年度は5つの小学校全てで実施したい。これから各地区に合った授業の方法・内容を詰めていく。昨年度のメンバーは9名全員が残ってくれ、新しく女性が3名、男性が1名増え、強力なメンバーとなった。この1年しっかりやれると思う。
- ・2つ目は、参画・協働・情報共有という3つのまちづくりの基本原則のガイドラインを作成するというので、行政から素案も見せていただいた。市民の目線からも検討を十分行い、作っていききたい。
- ・出前授業は、今年度全ての小学校で実施するから終わりではなく、来年度以降も続けなければ意味がない。今年度、市民会議に参加いただく13名だけでなく、広報などでも募集して、出前授業に参加してくれる人を見つけない。そうすることで、今後も、活動を継続する仕組みもつくっていききたい。

委員：

- ・昨年度、子ども市民憲章の活用や、まちの達人の広報での紹介を行い、そこで掘り起こした人のつなげ方や、他の分科会との連携も含めて考えてきた。3月には、「高浜（まち）の学校」のお試し版として、カメラ塾を行い、非常に好評であった。小さな講座であったが、参加者の満足度は大きかったと思う。こうしたことを「高浜（まち）の学校」として提供していきたい。大きな一発の打ち上げ花火ではなく、今後も継続できることを実施していきたい。まち協やここにいる皆さんがやっているようなこと1つ1つも含めて、まちの学校というコンセプトにつなげたら良いと思う。
- ・負担になってくると継続はできない。継続できる仕組みを職員リーダーとともに考えていきたい。

委員：

- ・昨年度は、教育基本構想を推進するための9つの委員会の内、学校支援の委員会に関わった。今年度開催する委員会の再構成も行ったが、学校の支援を中心に、分科会の皆さんには関わっていただきたい。
- ・具体的にどうしていくかについてはまだ検討ができておらず、他の分科会との関わりも見えないため、前半はこの辺りを整理し、後半から動き出すという感覚で考えている。

委員：

- ・今年度は、職員リーダーが新しい参加者を増やしてくれたため、新しいスタートが切れると思っている。特産野菜や地場産業の鬼瓦、瓦といった分野に加え、新たに、三河高浜駅の活性化という夢を抱く3つのチーム編成で、具体的なアクションを起こしたいと思っている。三河高浜駅の空き店舗を無償で提供していただき、分科会でアンテナショップを立ち上げるく

らしいの勢いを持ってもらえるのではないかと思います。

- 委員：
- ・前期基本計画まとめの年ということで、引き継げる人材を育てていきたい。
  - ・環境分野は、全員が参加し、継続できるプログラムを考えていかないと効果が出ない。また、コストとして何が、どう数字として表されるかも考えていく必要がある。例えば、不法投棄が発生し、「すぐに片づけて」と電話が市役所に入ると、職員が片づけに行っているが、これがいつまでも続いて良いのか。昨年度の発表会で発表した3本の柱をより肉付けし、関係者をできるだけ多くして、継続とコストを目線に入れた活動をしていきたい。
- 委員：
- ・防災では、標高の見える化の検証と情報伝達について取り組んでいきたい。
  - ・標高の見える化の第2弾として、昨年度、分科会メンバーが直接店などに出向き、73箇所から標高シール設置の賛同をいただいた。防災訓練の際には、設置箇所について検証していきたい。
  - ・情報伝達としては、昨年度、海岸沿いや標高の低い場所25箇所に防災無線が設置された。分科会と防災ネットきずこう会がコラボして、目的を果たしていきたい。
  - ・まずは市民の自助の認識、理解、行動を起こしてもらうことが大事。これを災害が起きる前に、いかに準備できるか。分科会では、自助に取り組んでもらえるよう行動していきたい。
- 委員：
- ・防犯の分野は範囲が広い。統計として出るのは、犯罪被害数であるが、昨年度3月までの統計では、市内で86件の犯罪が発生している。高浜市くらいの規模で考えると多い。車上狙い、部品狙い、自転車盗が非常に多い。自分自身が被害に遭わないと、なかなか気づかない。行政からも資料等で啓発・PRすることが大事だが、やはり、自分のことは自分で守るという自己防衛、自助が一番大事。そのことを、より多くの人に知っていただきたい。
  - ・市民会議へは、もっと新しいメンバーが入ると良かったと思う。
- 委員：
- ・地域福祉分科会では、3点のことを進めていこうと考えている。
  - ・1つ目が、NEW ボランティア人を広めること。これまでの周知・啓発の活動は引き続き行うが、新たに、NEW ボランティア人を把握するための活動を行う。まだ、十分に市民の皆さんに伝わっていないため、より一層周知していきたい。
  - ・2つ目は、ポッチャを広めること。出前講座は引き続き実施し、子どもからお年寄り、障がい者も一緒に取り組めるスポーツ大会を検討したい。ポッチャを通じて、審判やお手伝いをするといったことからNEW ボランティア人も広めていきたい。昨年度2月から、出前講座を4件実施している。道具の貸し出しも4件あった。いろいろな場面で実施していただけていることをまず把握し、実施していただいたグループをつなげる働きかけも大切だと思っている。
  - ・3つ目は、災害時要援護者支援の取組み。この件については、まだ深く話

し合っていないため、これから話し合っていきたい。

- ・福祉はとても広い範囲の分野だが、まずは“大家族”、“つながる”ということで、ボッチャのようなゲームを行いながら広げていくと、分かりやすい内容になると思う。新しいメンバーもいるため、内容の濃いものにしていきたい。

委員： ・これまで、基本目標の達成に向かって取り組んできたが、病気の早期発見、早期治療だけでなく、健康増進などの一次予防が大切ということで、市民が自ら取り組むこと、地域で取り組むこと、行政とともに取り組むことの3つで進めることが大切であると思っている。健やかに、いきがいを持ち、はつらつと生活していくためには、まずは健康であることが大切。健康である期間の健康寿命を延ばすことが課題。

- ・5名の新規メンバーがおり、その人たちの意見を聴くことを楽しみにしている。地域福祉とは共通点が多く、時として合同で分科会を開催したいと考えている。結果を中期基本計画に反映できればと思う。

・職員ともタッグを組んで頑張っていきたい。

委員： ・総合計画を推進するには、分科会の取り組みにかかっていると思っている。その意味でも、本年もよろしくお願ひしたい。

- ・高浜市の経営戦略のキーポイントを探するため、職員で、SWOT分析を実施した。一例として、内部環境では、弱みとして「市域が狭隘で人口が少ない」ということが挙げられ、強みとして「市域が狭く、市民との距離が近い」ということが挙げられた。また、脅威として「人口、生産年齢人口の減少、高齢化」が挙げられ、チャンスとして「住民自治の重要性が高まっている」といったことが挙げられた。これらは表裏一体であり、前向きに捉えることが大事だと感じた。

会長： ・それぞれの分科会が、具体的に、シャープに、パンチ力のある取り組みを行い、成果が出てきている。研究者同士の話の中で、高浜市のキャッチフレーズは、「大家族たかはま」であると言ったら、珍しいフレーズであったため、感動していた。コンサルが作ったのではなく、市民が作ったものだと分かる、ハンドメイドの総合計画である。自治推進分科会における、5小学校全てでの出前授業の実施は、ありがたい。これは、学校教育部門の協力あってこそであり、その分科会の協力がなければ難しいのではないか。つながりが良くなってきていると感じる。シャープで明確な取り組みになり、全国に誇れる水準になっている。これからもがんばって進めていただきたい。

・議事録については、書面表決とする。

・今後の日程 第2回推進会議：7月24日（水）19時～

第3回推進会議：9月25日（水）19時～

第1回市民会議：5月20日（月）19時～ 中央公民館にて